

冬期テキスト

実練編

国語

中学 **2** 年



第7講座

古典 — 古文の読解・漢文の知識

学習日 月 日

基本問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〔宮城〕

そもそも、上手にも悪き所あり、下手にもよき所かならずあるものなり。^{*}これを見る人もなし。^①主も知らず。上手は、名を頼み、達者に隠されて、悪き所を知らず。下手は、もとより工夫なければ、悪き所をも知らねば、よき所のたまたまあるをもわきまへず。されば、上手も下手も、たがひに人に尋ねべし。

〔風姿花伝より〕

〔注〕 上手⇨わざのすぐれた者。

これを見る人もなし⇨これを見分ける人もいない。

問1 人物理解 — 線①「主も知らず。」とありますが、この「主」に当たる人物として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 上手 イ 上手と下手
ウ 下手 エ これを見る人

問2 古語の意味 — 線②「名を頼み」とありますが、その意味として、最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 上手であるという名声を過信して
イ 上手であるという名声を誇示して
ウ 上手であるという名声を追求して
エ 上手であるという名声を期待して

問3 内容理解 次の文は、この古文で述べられていることをまとめたものです。□に当てはまる言葉を、二十字以内で書きなさい。

わざを極めるためには、□ことが必要だ。

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〔滝川高改〕

ある人庭鳥を飼ひけるに、日々に金のまろかしをかい子に産む事あり。主これを見て、よろこぶ事かぎりなし。しかりといへども、日に一つ産む事を堪へかねて、「二つも三つも続けさまに産ませばや」とて、その鳥を打ちさいなめども、その験もなく、日々に一つより外は産まず。主心に思ひけるやうは、いかさまにもこの鳥の腹には、大きなこがねやはべるべきとて、その鳥の腹を割く。かやうにして、頂きより足のつまさきまで見れども、別のこがねはなし。その時主後悔して、「もとのままにておかましものを」とぞ申しける。そのごとく、人の欲心に耽る事は、かの主が鳥の腹を割けるにことならず。日々にすこしの儲けあれば、その一命を過ぐるものなれども、積みかさねたく思ふによつて、つひに飽き足る事なくて、あまつさへに宝をおとして、その身をもほろぼすものなり。

〔伊曾保物語より〕

〔注〕 金のまろかしをかい子に産む⇨金のまろい卵を産む。

打ちさいなめども⇨打ち叩いて責めるけれども。

験⇨効果。 いかさまにも⇨おそらくは。

大きなこがねやはべるべき⇨大きな金があるに違いない。

一命を過ぐるものなれども⇨自分の生命を維持し、暮らしを立てていくものであるけれども。

積みかさねたく思ふによつて⇨財産を蓄えたいと思うものだから。
あまつさへに⇨その上に。

問1 仮名遣い — 線①「いへども」・③「かやうにして」を、現代仮名遣いに直して書きなさい。

①) ③)

問2 会話文 — 線②「心に思ひけるやうは」とありますが、「主」が心の中で思った内容はどこからどこまでですか。初めと終わりの五字をそれぞれ抜き出さないさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問3 主語 — 線④「見れども」の主語を次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 庭鳥 イ かい子(卵) ウ 主 エ 作者

--

問4 内容理解 — 線⑤「日々にすこしの儲け」があるとは、庭鳥の話でいうと、どういうことに当たりますか。古文中から七字で抜き出さないさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問5 内容理解 — 線⑥「宝をおとして」とは、庭鳥の話でいうと、主が庭鳥をどうしたことですか。二十字以内で書きなさい

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問6 主題 この話に述べられている教訓として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間はあまり欲を出すと、ついにはわが身の滅亡を招く。
イ 人間は欲を出さなくても、身を減ぼすことがたまにある。
ウ 人間は欲を出す出さないにかかわらず、身を減ぼすものだ。
エ 人間は物質的な欲が過ぎると、精神的な面で悪影響がある。

--

③ 次の漢文の書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

世に伯楽^{ホラク}有り、然る後に千里の馬有り。千里の馬は常に有れども、伯楽^{ホラク}は常には有らず。故に名馬^{ヨメ}有りと雖も、祇だ奴隸^{ヌレキ}人の手に辱められて、槽檻^{ソウケン}の間に駢^ナび死し、A。

(注) 伯楽 馬を見分ける名人。 槽檻 飼い葉桶。

〔雑説〕より

問1 返り点・送り仮名 — 線①「伯楽は常には有らず」とありますが、この読み方になるように、次の漢文に返り点と送り仮名を書き入れなさい。

伯 楽 不 常 有

問2 書き下し文 次は、Aの部分の訓読文です。書き下し文に直さないさい。

不^{ザル}以^{ツテ}二 千 里^ヲ一 称^{セラレ}也^{ナリ}

問3 内容理解 この文章で筆者が主張したいことについての説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 才能がなくても、優れた指導者がいれば上達は可能だ。
イ 才能があるかどうかは、評価する人によって変わる。
ウ どれほど才能があっても、無理をすればだめになる。
エ 優れた才能は、それを認めて伸ばす人が不可欠である。

--

● 要点のまとめ

● 主語の省略……古文では、主語が省略されていることが多い。誰がした動作か、誰が言った言葉かなど、主語を補いながら読む。

● 係り結びの法則……係助詞「ぞ・なむ・や・か」があるときは連体形に、「こそ」があるときは已然形に、文末が変化する。

● 漢文の読み方……返り点に従って、漢字をどの順序で読むのか確認する。

演習問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〔長崎改〕

昔、季札^{きさつ}、呉王^{ごおう}の使^{つか}として、ものへ行きける道に、徐君^{じょくん}といふ友だちに逢^あひて、ものいひけるほどに、徐君、季札^{きさつ}が佩^はける太刀を望^{のぞ}む気色^{けしき}ありけれども、言葉に出^いでていはざりけり。季札^{きさつ}、これ^①をさとりて与^よへむと思^{おも}ひけるが、「われ、使節^{しせつ}の身なり。帰^{かへ}りさまに与^よふべし」と心の^②中に契^{きぎ}りて去^さりぬ。いくほどを経^③ずして、帰^{かへ}さに尋^{たず}ぬるに、徐君、早くはかなくなりければ、心の^④中の約束のたがへざらむがために、かの塚^かをたづねて、その剣をかけける。

〔注〕 ものへ行きける道に＝あるところへ行く途中で。

佩^はける＝腰につけている。 帰^{かへ}りさま＝帰る途中。

はかなくなりければ＝死んでしまっていたので。

塚＝墓。

〔十訓抄〕より〕

問1 内容理解 — 線①「これ」とありますが、どのようなことを指していますか。三十文字以内で書きなさい。

問2 古語の意味 — 線②「いくほどを経ずして」とありますが、この部分の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア どれほどもしないうちに。 イ どうしても忘れられずに。
ウ どこにも立ち寄らないで。 エ どうするべきかわからずに。

☐

問3 主語 — 線③「帰さに尋ぬるに」の主語を、古文中から抜き出して書きなさい。

語を、古文中から抜き出して書きなさい。

問4 内容理解 — 線④「心の中の約束」とありますが、この内容が具体的に書かれている部分を古文中から十字以内で抜き出しなさい。

問5 人物理解 「季札」はどのような人物として書かれていますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 友人と交わした約束を果たすために、王の使いの仕事も早々に片付けるほど、友情に厚い人物。
イ 心の中で交わした友人との約束を気にかけてつも、王の使いの仕事を優先する思いやりのない人物。
ウ 口に出して交わしてもいない友人との約束を、友人が亡くなった後ですら守ろうとする誠実な人物。
エ 友人の気持ちがどのように変わろうと、友人との約束を守り、自分の信念を貫き通す正義感の強い人物。

☐

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〔京都改〕

① 相模守時頼^{まがみのかみときより}の母は、松下^{まつしたの}禪尼^{ぜんに}とぞ申しける。守^{まも}りを入^いれ申^{まを}さる事ありけるに、すすけたる明^{あか}り障子^{しょうし}の破^{やぶ}ればかりを、禪尼^{ぜんに}手づから、小刀^{ことう}して切^きりまはしつゝ張^はられければ、兄^{あに}の城介^{じょうけ}義景^{よしかげ}、その日のけいめいして候^{まち}ひけるが、「給^{たま}はりて、なにがし男^{おとこ}に張^はらせ候^{まち}はん。さやうの事に心得^{こころえ}たる者に候^{まち}ふ」と申^{まを}されければ、② その男、尼^にが細工^{さいこう}によもまさり侍^{はべ}らじ」とて、なほ一間^{いっけん}づつ張^はられけるを、義景^{よしかげ}、「皆^{みな}を張りかへ候^{まち}はんは、はるかにたやすく候^{まち}ふべし、まだらに候^{まち}ふも見苦^{みくる}しくや」とかさねて申^{まを}されければ、③ 「尼^にも、後は^{あと}さはさはと張りかへんと思へども、今日^{けふ}ばかりは、わざとかくてあるべきなり。物は破^{やぶ}れたる所ばかりを修理^{しゆり}して用^{もち}ゐる事ぞと、若^{わか}き人に見^みならはせて、心づけんためなり」と申^{まを}されける、いとありがたかりけり。

〔徒然草〕より〕

(注) 入れ申さるる〓招待なさる。 けいめいして〓準備につとめて。

なにがし男〓だれそれという男。 さはさはと〓すつきりと。

問1 表現技法 — 線①「相模守時頼の母は、松下禪尼とぞ申しける。」で

用いられている表現として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 掛詞 イ 対句 ウ 体言止め エ 係り結び

☐

問2 歴史的仮名遣い — 線a「切りまはし」、b「さやう」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

a () b ()

問3 古語の意味 — 線②「尼が細工によもまさり侍らじ」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私と一緒に手仕事をしたと言ったのでしようか。
イ 私の手仕事には決して勝っていないでしょう。
ウ 私が細工をしたとはまさか思っていないでしょう。
エ 私より上手に細工をすることができるとしよう。

☐

問4 内容理解 — 線③「わざとかくてあるべきなり」とありますが、尼は何のために、わざとどうしたと言っていますか。四十字以内で書きなさい。

③ 次の漢文を読んで、後の問いに答えなさい。

趙簡子に臣有り。周舎と曰ふ。直諫を好み。周舎死す。簡子朝を聴く毎に

簡子曰、大夫無^②臯。吾聞、千羊之皮不^③如^④一

狐之腋。諸大夫朝、徒聞^⑤唯^⑥唯。不^⑦聞^⑧周

舎^⑨鄂^⑩是^⑪以^⑫憂^⑬也。

〔蒙求〕より

(注) 直諫〓遠慮なくいさめること。 朝を聴く毎に〓朝廷で政治について聴くたびに。 臯を請ふ〓至らぬ点について罰せられることを願った。

千羊之皮不如一狐之腋〓千頭の羊の皮の価値は一匹の狐のわきの皮に及ばない。

朝〓朝廷にやって来ても。 唯唯〓人の意見に従う言葉。 鄂鄂〓遠慮のない言葉。

問1 返り点 — 線①「大夫臯を請ふ」とありますが、この読み方になるように、次の白文に返り点を書き入れなさい。

大夫請臯

問2 内容理解 — 線②「吾」とありますが、これは誰のことですか。文章中から抜き出しなさい。

()

問3 内容理解 — 線③「一狐」とありますが、これは何をたとえた表現ですか。文章中から二字で抜き出しなさい。

☐

問4 内容理解 — 線④「憂也」(嘆いているのである)とありますが、趙簡子はどのようなことを嘆いていますか。三十字以内の現代語で書きなさい。

弊社サンプルをご覧ください、
ありがとうございました。



紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本^{*}と目次をご覧ください。

※一部教材を除く

会員登録はこちら



Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー
のお知らせ

